

会 議 概 要

会議の名称	令和3年度第5回社会教育委員会会議
開催日時	令和4年3月25日(金) 14時00分 開会 16時00分 閉会
開催場所	湧別町文化センターさざ波 多目的ホール
出席者名	深谷委員長、山本副委員長、梅田委員、平野委員、杉原委員、村田委員、毛利委員、渡辺委員、工藤委員、菅委員 10名 教委～阿部教育長、坂本課長、中島参事、藤本主幹、渡辺主査、土佐主査、高橋主査、鈴木主事
欠席者名	安瀬委員、武藤委員、鈴木委員、三橋委員
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 教育長あいさつ 4. 議 事 議案第1号 令和3年度社会教育事業実績、反省評価について 議案第2号 令和4年度社会教育事業計画、予算について 議案第3号 第2次社会教育中期計画のふりかえりについて 5. 委員長あいさつ・閉会
会議資料	令和3年度第5回社会教育委員会議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (<input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記) <input type="checkbox"/> 無
備考	

てん末書

1 日 時

令和4年3月25日(金) 14時00分～16時00分

2 会 場

湧別町文化センターさざ波 多目的ホール

3 会議及び用務

第5回社会教育委員会議

4 出席者

社会教育委員～深谷、山本、梅田、平野、杉原、村田、毛利、渡辺、工藤、菅

各委員 10名

欠席～安瀬、武藤、鈴木、三橋 各委員 4名

教委～阿部教育長、坂本課長、中島参事、藤本主幹、渡辺主査
土佐主査、高橋主査、鈴木主事

5 結果要旨

1. 開 会
2. 深谷委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 議 事 (深谷委員長による進行)

○議案第1号 令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

質 疑

(梅田委員) 特別展示の来館者数、感想があれば聞きたい。

(高橋主査) 来館者数はカウントしていない。テーマに興味を持った方が来館し、来館者同士で繋がり学習する機会が出来たという感想を伺っている。ただ、展示テーマに興味がある方の来館なので、図書館利用には繋がっていない。

○議案第2号 令和4年度社会教育事業計画、予算について

質 疑

- (工藤委員) : e スポーツをやめた理由は何かあるか。
- (土佐主査) : 事業を行うにあたって、社会教育委員と担当にて e スポーツに係る研修会に参加を予定している。基盤を固めたうえで実施する方向とした。
- (工藤委員) : ニュースポーツは何歳を想定しているか。
- (藤本主幹) : 20代～30代を想定している。
- (工藤委員) : 今の20代や30代であれば、家庭があつたり仕事が忙しい年代であると考え。かわらばんやホームページに掲載するくらいでは、企画倒れにならないか心配。周知方法を工夫する必要があると考える。
- (藤本主幹) : かわらばんやホームページの周知と併せて、湧別青年団体協議会と協力して実施を予定している。
- (梅田委員) : アクティブシニア向け新規事業について、とてもいい事業だと思う。
- ただ、12/8に行われた第3回社会教育委員会議にて新規事業として説明いただきたかった。スポーツフェスティバル in ゆうべつが計画から消えている理由を教えてください。
- (藤本主幹) : 中期計画の中で方向性を位置づけてから実施を検討しているため。
- (梅田委員) : 一般芸術鑑賞会は来年度も実施するのか。
- (土佐主査) : 今回、一般芸術鑑賞会を計画した経緯としては、民間団体「良いもの見よう聞こう会」「ビッグ・ウェーブ」の活動がコロナの影響により停滞しており、町長から芸術・文化活動で町に活気を与えられないかと話があり検討を行った。音楽関係は対象が狭まると考え、寄席公演を計画した。ただし、令和5年度以降から毎年やるものとして計画しているものではない。

○議案第3号 第2次社会教育中期計画のふりかえりについて

資料P24～P25 文化財保護活動・博物館活動関係

質 疑

(梅田委員) 郷土館のボランティアについて、コロナの関係もあって活動ができていない現状の中、ボランティアも高齢化しており心配。ただ、これからも続いてほしい。ボランティアの現状と今後について聞かせてほしい。また、人口1万人にも満たない小さな町ではあるが広く町民へ知ってもらいたいことから事業の際には周知などしっかり務めていただきたい。

(中島参事) 当初、ガイドボランティアが4名いたが、現在は3名になっている。

ガイドボランティアは1時間程度来館者と接しガイド活動をしており、コロナの影響から活動が出来ていない。現在ガイドボランティアとして活動している方がいなくなると続けていくのが難しいと考える。

資料 P 2 6 ~ P 2 7 スポーツ活動とスポーツ施設整備関係

質 疑

(山本委員) 次の計画を立てるうえでスポーツ活動の現状を教えてください。

(藤本主幹) スポーツ事業について、サロマ湖100kmウルトラマラソン大会、柔道上野カップをメインとし、多くの人が町内に来ることで活性化を図っているがコロナの影響により中止となった。その他の事業については、小学生を対象としたチャレンジスポーツ、運動指導職員による健康運動教室、運動指導を実施。体育協会、少年団活動については、会員、団員が減少している傾向がある。体育協会は、昨年スキー協会が統合し活動をしている。会員、団員の減少は今後の課題としている。

(平野委員) サロマ湖100kmウルトラマラソン大会、クロスカン트리スキー大会などイベントスポーツができていないことから、町民のニーズを見る機会がない。これまでは町民の傾向など分析しなくてもある程度例年通り事業を組み立てられていたが、それが出来なくなってきたのではないかと。町民のニーズに沿った事業展開が出来ればと考える。

(工藤委員) コロナの影響で各事業が中止となり、子どもたちの目標がなくなっている。事業については少人数でも実施をした方がいいと考える。

(平野委員) 子ども会事業だがコロナの影響により参加者が少なく、事業の中止が相継ぎ子どもを応援する機会が減った。昔は子ども

会駅伝競走大会など保護者も一緒に応援したりと一体感をもって事業に取り組んでいた。オンラインで何かというよりも実際にやる事が大事だと考える。また、図書館事業でブックスタートという事業があり、ブックゴールがあってもいいと考える。内容としては、湧別町民に読んでもらいたい本をこちらで20冊程度設定し、読み終えたら何か特典を渡すというもの。ただ、20冊読み終えたら終わりというわけではなく、1期～3期程度に分け、何種類もの本を読んでいただきたいと考える。

- (毛利委員) 冬にスキーをやっている。コロナの影響で屋外で距離感を保てるためか、スキー場が混雑していた。
- (杉原委員) 屋外ということと基本個人競技であり、密にならないためではないか。また、団体競技よりも個人競技がコロナ禍では活動がしやすい。
- (渡辺委員) 先日、ウォーキングを行った。ウォーキングはコロナに関係なく自分の好きな時間に手軽にできる。また、目標を定めることで、モチベーションも高まり楽しめた。歩いた歩数に応じたポイントがもらえる事業があっても面白いと思った。

資料 P 2 8 ～ P 2 9 生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備関係

質 疑

- (平野委員) オンラインを活用した取り組みをどう中期計画に盛り込むか、どれだけ文面として記載しようと考えているか。
- (坂本課長) 中期計画を協議していく中で、コロナ対応は当然関わってくる。文言としてどれだけ記載するかは協議次第と考える。

5. 閉 会 終了 16時00分

令和3年度
第5回社会教育委員会議案

と き 令和4年3月25日(金)
午後2時00分

ところ 文化センターさざ波 多目的ホール

〈会議日程〉

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 議 事

議案第1号 令和3年度社会教育事業実績、反省評価について(1～12P)

議案第2号 令和4年度社会教育事業計画、予算について(13～23P)

議案第3号 第2次社会教育中期計画のふりかえりについて(24～29P)

その他

5. 委員長あいさつ ・ 閉会

湧別町教育委員会

社会教育委員名簿

役 職	氏 名	住 所	出欠
委員長	深谷 聡	計呂地	
副委員長	山本 重幸	錦町	
	梅田 唯士	上湧別屯田市街地	
	平野 寿雄	上湧別屯田市街地	
	安瀬 勇	上湧別屯田市街地	
	武藤 智和	開盛	
	杉原 武純	旭	
	村田 一平	中湧別南町	
	毛利 美紀子	中湧別北町	
	渡辺 香織	中湧別南町	
	鈴木 由美子	栄町	
	工藤 雄希峰	登栄床	
	三橋 裕介	中湧別南町	
	菅 済	富美	

(教育委員会)

役 職	氏 名
教育長	阿部 勉
社会教育課長	坂本 雄仁
社会教育課主幹	藤本 祐司
社会教育G主査(社会教育担当)	渡辺 武文
社会教育G主査(文化振興担当)	土佐 信太郎
社会教育G主事	鈴木 健太
社会教育G主事	原 茉畝
社会教育課参事 <small>(図書館館長、ふるさと館JRY・郷土館館長)</small>	中島 一之
図書館主査(湧別図書館)	高橋 結香梨
図書館主査(中湧別図書館)	北村 公樹
ふるさと館JRY・郷土館主任	林 勇介

議案第1号

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期 日	場 所	計 画 内 容	予算額	実 績 額	実 績 (状 況) 等	中期計画 推進項目
基 盤 整 備	生涯学習情報の収集・提供・相談体制の充実	年 間	—	○情報収集と提供 ・生涯学習情報誌「湧く湧く」の発行（毎月） ・遠軽地区情報誌「なな・なんと情報」の発行（2カ月に1回）（佐呂間町が当番町） ・町ホームページによる情報の体系的整理と提供 ・動画による事業記録を収集し活用法を模索 ○相談体制の充実 ・生涯学習に関する相談体制の整備に努める。	「湧く湧く」 印刷費 1,188千円	「湧く湧く」 印刷費 1,070千円	○情報収集と提供 ・生涯学習情報誌「湧く湧く」の毎月発行 ・遠軽地区情報誌「なな・なんと情報」の偶数月発行。（6月、12月号は原稿が不足し、発行中止。） ・町ホームページによる事業PR（4月～2月） まちな話題 記事数59件（前年同時期32件） コロナの影響を受け、施設の開館状況や、事業の変更など臨機応変な周知を行った。 ・動画により一部事業を記録保存し、活用法を模索している。 ○相談体制の充実 ・地域住民の学びと活動に関する相談に随時対応している。	10-1 10-3
	指導者の発掘・養成・活用	年 間	—	主体的な学習と地域貢献との好循環をすすめるため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—	—	教室や講演ほか事業の企画にあたって、随時講師に関する情報を収集し、活用を図った。	10-4
	団体活動の支援・育成	年 間	—	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—	—	コロナ禍で活動に制限を受ける中において、団体の規模や体力をふまえて、主体的な取り組みに向けての協力を行った。	10-4
	生涯学習振興奨励事業	年 間	—	（生涯学習住民活動推進事業） グループ・サークル等が主体的に行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。（補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%）	3件程度 300千円	0円	実績なし。	10-4
	施設の整備・運営・連携	年 間	—	公共施設再配置計画など上位計画との整合を図りながら、施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	別紙施設整備計画のとおり	—	別紙社会教育施設整備計画に記載するとおり。	10-2 10-5
家 庭 教 育	家庭教育研修会	12/12 (日)	文化センター TOM	家庭教育が困難な現状の共通理解と家庭教育の重要性を啓発するための研修会。健康こども課と連携し、ニーズの把握に努め定着を図る。PTA連合会へ後援依頼予定。	講師謝礼 100千円 需用費8千円	0円	「子どもの成長の見方と味方、子どもの健康のパスポート」 講師 伊藤善也（日本赤十字北海道看護大学教授）～講演終了後に交流会を開催 参加 一般参加9人、パステル職員4人、託児 5人 主催 教育委員会 後援 湧別町PTA連合会、湧別町健康こども課 協賛 湧別町家庭教育サポート企業、湧別町農業協同組合	1-1
	健康こども課との事業協力	年 間	—	健康こども課との打合せ会議を開催し、子育て支援センター、子育て世代包括支援センターとの協力体制の充実を図る。	—	—	家庭教育支援と子育て支援の連携強化に向けた打ち合わせ会議の開催 ・10月27日実施 参加 子育て相談担当、子育て支援センター担当、教育AD、社会教育担当 ・議題 社会教育課の目指す家庭教育の方向性について 家庭教育研修会について	1-3 1-4
	家庭教育相談	年 間	相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供する。	—	—	校長と教育AD間の連絡により随時教育相談に対応している。 特に必要とする数名の保護者に対しては、直接の面談も含め継続的に相談をしている。	1-2
少 年 教 育	児童宿泊研修会 ⇒延期	6/17(木) ～18(金) 12/2(木)～ 3(金)	ネイバル 北見	社会性を培う機会として、全小学校5年生合同で、体験活動を実施。担当教職員の事前打合せと反省会も行い、目的や役割分担の共通理解やノウハウの蓄積を図る。	参加費57千円 (2,500円×1/2 ×45人) バス借上料49千円	参加費42千円 (1人2,250円 ×1/2助成) バス借上料98千円	5/20に新型コロナの影響から当初予定していた6月の開催は困難と判断し、12/2～3開催へ延期し開催。 全小学校の5年生36名、教諭9名、教委2名が参加 各種体験活動を通して、社会性を培う機会を提供。 11/11、25担当者会議を開催。担当教諭の連携を密に、スムーズな運営に努めた。また次年度生かすため1/18反省会議を実施。	2-1 2-4
	子ども会の育成・援助	年 間	—	青少年指導センターの活動支援とあわせ、単位子ども会や湧別地区サポート協議会のあり方について指導助言する。	補助金 250千円	補助金 170千円	子ども会員+育成者（保護者）合計757人（昨年778人）（子ども会安全会加入者数より） 青少年指導センター事務局を教育委員会が支援（関連事業に掲載）	2-2
	第1回子ども会 リーダー研修会 ⇒中止	7/28(水) ～29(木)	五鹿山公園	住民自治の基盤ともなる地域子ども会の主体的な活動が進むよう、子ども会のリーダーとしての役割や心構えを学び、そのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター会計から支出	青少年指導センター 会計から支出	新型コロナの影響により中止。	2-1 2-2 2-3
	第2回子ども会 リーダー研修会	3/29(水) ～30(水) ⇒27(日)	特別生涯学習センター ⇒文化センターさざ波				新型コロナの影響により宿泊研修を中止し、日帰り日程として文化センターさざ波において研修会を実施。	

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等	中期計画推進項目
少年教育	百人一首教室(仮)	11月~1月 毎週土曜日	農村センター	日本古来の伝統の競技を通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。教室で継続指導することで、指導者と参加者の地域におけるつながりづくりも目指す。大会は実行委と教委との共催。小1~大人まで対象。	報償費24千円 需用費43千円	0円	10/11実行委員会を開催。競技種目の特性をふまえ協議の結果、教室、大会ともに中止とした。	2-1 2-3
	第53回新春交歓カルタ大会	R4.1/23(日)						
	湧うゆう湧くわく体験塾	年間 (月2回程度)	町内ほか	小学校4~6年を対象に体験の機会を提供し、知的探求心、地域への愛着とコミュニケーション能力を養成する。また、成人ボランティアの指導を仰ぐことで地域の教育力活用を図る。	報償費35千円 需用費20千円	報償費10千円 需用費30千円	小学生22名登録。4/24入塾式、7/10子牛とふれあい&バターづくり体験、7/17川釣り体験、8/7愛ランドYOUで仲間づくり、8/21パークゴルフ体験、10/16球根植え付けボランティア、10/30JRY体験、11/20ネイチャークラフト、12/4X'masリース作り、12/18X'masケーキ作り、3/26閉塾式 協力：久保体験牧場、湧別アウトドアクラブ、パークゴルフ協会、網走西部森林管理署、加工センター ※新型コロナの影響などにより7回の事業が中止となった。	2-1 2-2 2-4
育	湧別町・新篠津村友好都市少年交流事業 ⇒中止	8/3(火) ~5(木)	新篠津村(派遣年)	自然や産業体験活動など、児童の派遣と受入の交流を毎年交互に行うことで、お互いのまちの魅力を学ぶとともに交流の輪を広げる。小学校5~6年およびリーダーとして、中・高校生も参加。小学生は参加経費の半額、リーダーは全額町負担。	報償費90千円 需用費10千円 借上料395千円	0円	受け入れ先の新篠津村からの申し出により、6/11中止とした。	2-1 2-2 2-4
青年教育	青年団体の育成・援助	年間	青年会館ほか	子どもを対象とした冬季事業、屯田セタまつりでの出店など、伝統を受け継ぐ青年団体協議会を支援する。	補助金 160千円	補助金 160千円	5/5総会を開催。会員数15名。コロナ禍で活動に制限を受ける中において、単独主催事業も中止された。主体的活動に向け相談体制を保つ。	3-1 3-2 3-3 3-4
	【令和2年度から延期】 令和3年成人式【延期】 ⇒中止	R3.5/2(日) ⇒9/19(日)	文化センターさざ波	新成人を祝い励ますとともに、社会人としての意識高揚を図る。町主催、教委主管。成年年齢引き下げ(R4)後も20歳を対象とする見込。 ※軽食ボランティアとの協働 ※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費623千円 需用費41千円⇒ 894千円(6月補正)	報償費0円 需用費282千円	令和2年度からの延期として5/2開催予定であったが、新型コロナの影響により9/19に再延期とし、名称も「20歳の集い」と改めた。しかし、緊急事態宣言対象地域に在住し出席が困難な参加予定者が多数いることから8/20中止を決定。対象者83名に対して記念品を郵送したほか、町ホームページに特設ページを設置し、町長メッセージ、恩師からのお祝いの言葉などを掲載した。	3-1
	令和4年20歳のつどい	R4.1/9(日)				報償費245千円 需用費279千円	軽食ボランティアの募集と昼食交流会の実施を取りやめ。式典は感染対策を講じ実施。式典出席者 61人	
成人教育	第45回湧別町民大学	9月~11月 全5回	文化センターTOM	有志実行委員会組織主催。各ジャンルの講師を招き、今日の課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供する。団体とのコラボ企画や、勤労世代の参加促進にも努める。町PTA連合会との連携事業。	運営費助成 2,000千円	運営費助成 1,520千円	6/22、8/5に実行委員会を開催。 第1回目である9/29瀬古利彦氏の講演については、緊急事態宣言中であることから11/30に延期とした。 10/13丸谷晋保氏(104名)、10/29本田優子氏(78名)、11/10小林快次氏(96名)、11/25高野優氏(62名)、11/30瀬古利彦氏(103名)	4-1 4-2 4-3 4-4
	第11回ふるさと講座 ⇒延期	10/2(土) ⇒11/27(土)	文化センターTOM	町の人を講師に、地域の価値を学び共感する機会提供のための座学講座。郷土学サークル「ふるさとから学ぶ会」との共催で行う。今回のテーマは「湧別川」	講師謝礼 20千円	講師謝礼 5千円	10/2開催予定であったが、緊急事態宣言が延長された状況などを踏まえ、11/27に延期。中島一之氏(JRY館長)、上嶋耕太氏(網走開発建設部選軽開発事務所技官)、絹張洋史氏(ゆうべつアウトドアクラブ会長)を講師に、「湧別川」をテーマに湧別川の特徴や役割、魅力について学んだ。一般参加者63名	
	第9回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅⇒延期	5/22(土)	五鹿山公園	普段見落としがちな町の価値(=お宝)を、それに詳しい講師の案内によってバスツアー形式でたずね歩き価値を共有する。昨年中止となった「五鹿山」の魅力を感じる企画	講師謝礼10千円 借上料55千円	0円	澤口政一氏(東町)、白幡美栄子氏(港町)を案内人に、五鹿山の花や野鳥などを紹介する企画を計画。当初参加予定人数25名で5/22開催を予定していたが、緊急事態宣言の発出により5/17に開催延期を決定した。令和4年度春に延期。	
	PTA団体への援助	年間	-	各学校のPTAやその連合組織である町PTA連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円	補助金 180千円	連合PTA事業運営費の補助を実施。	
育	ボランティア団体との連携	年間	文化センターさざ波ほか	はまなすボランティアなど自主的な奉仕活動を支援する。	-	-		4-2 4-4

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等	中期計画推進項目
高齢者教育	チューリップ生きがい大学の開設	月1回程度	文化センター・TOM・さざ波ほか	高齢者が充実した生活を送られるよう学習活動の機会を提供する。自主活動としてのクラブ活動も支援する。	報償費236千円 需用費36千円 印刷製本83千円 借上料680千円	報償費50千円 需用費11千円 印刷製本80千円 借上料281千円	144名入級、6クラブ。4/13開講式、5/12健康体操と講話、10/19芸術鑑賞会(落語)、11/17講演会、12/9クラブ活動発表会、1/21映画観賞会、3/22閉講式 ※新型コロナウイルスの影響により町内バスツアー、日帰り研修、宿泊研修、秋の健康体操と講話、閉講式のお楽しみ会が中止となった。	5-1 5-2 5-3 5-4
	世代間交流事業・社会活動参加奨励	年間	学校ほか	学校からの求めに応じ、小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	-	-	学校からの依頼を受け、総合的な学習の時間への支援を実施予定であったが、湧別小3年生との昔遊び交流、生きがい大学クラブ活動と上湧別中3年生との交流、いずれも中止。	
芸術文化	文化団体の育成援助	年間	-	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助を行う。	補助金 350千円	補助金 300千円	加盟団体24団体を擁し、湧別町文化連盟として活動。総合文化祭などの文化活動を展開する。令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により総合文化祭は中止。	6-2 6-4
児童芸術鑑賞会	鑑賞機会提供団体の育成援助	年間	各文化センター	A.良いもの見よう聞こう会の活動支援 B.企画委員会ビッグ・ウェーブの活動支援 C.その他実行委員会等への活動支援	補助金 10,000千円	0円	A.良いもの見よう聞こう会 2公演予定 B.企画委員会ビッグ・ウェーブ 0公演 C.その他実行委員会 0公演 新型コロナウイルス感染症の影響により中止	6-1 6-2 6-4
	幼児芸術鑑賞会	7/6(火) 7/7(水) ⇒延期 12/16(木) 12/17(金)	文化センター・児童センター	幼児対象(2日2公演) 公演内容「食べられたやまんば(人形劇ほか)」 新芸能集団「乱拍子」	公演料 500千円	公演料 265千円	新芸能集団 乱拍子「食べられた山姥(人形劇)、わらべうた遊び、大道芸」公演 12/16 文化センターTOM 児童92名 保育士11名 計103名 12/17 文化センターさざ波 児童63名 保育士6名 計69名 合計172名鑑賞	6-1
児童芸術鑑賞会	児童芸術鑑賞会	9/7(火) ⇒中止	文化センターさざ波	小学生全学年対象(1公演) 公演内容「海底2万マイル」劇団ボブラ ※町内小学校5～6年生の紋別市鑑賞会の参加なし。次回参加年度は令和4年度以降。	公演料 500千円	0円	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。公演は次年度繰越。 ※令和4年度の紋別市開催の劇団四季こころの劇場開催は未定。(対象児童5～6年生)	6-1
	中学生芸術鑑賞会	10/6(水) ⇒中止	文化センターさざ波	中学生全学年対象(1公演) 公演内容「真夏の夜の夢」(笑あつ猫文化事業局)	公演料 500千円	0円	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。公演は次年度繰越。	6-1
子どもの振興	子どもアート体験事業	未定 ⇒中止	未定	国内外で活躍するアーティストが学校や文化施設に出向き、子ども達と一緒にワークショップや創作活動を行い交流する事業。講師：神田山陽氏	-	-	新型コロナウイルス感染症の影響により中止。	6-1 6-4
カルチャー教室	文化芸術作品展示会等の奨励	年間	文化センター	湧別町文化連盟加盟団体や町民個人を中心に、絵画や写真などの展示を実施し、芸術文化活動の振興を図る。	-	-	文化センターさざ波ギャラリー展示 「湧別カメラクラブ写真展」4/16～4/30 「ふるさと館JRY」6/29～8/20 「北方領土パネル展」11/1～11/12 「書道クラブ展示」12/9～1/31 文化センターTOMギャラリー展示 常設展示～写真、俳句、友好都市交流	6-2 6-3 6-4
	カルチャー教室	年間	町内施設	子どもから大人までを対象に趣味や一般教養など町民のニーズに合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 80千円	講師謝礼 37千円	子ども陶芸教室 7/22(木)、8/13(金) 老人憩いの家陶芸室 小学生15名参加 子ども木工教室 7/31(土) 老人憩いの家木工室 小学生8名参加 スワッグづくり教室 11/14(日) 文化センターさざ波多目的ホール 小学生～一般 14名参加	6-1
大会の開催等	第36回サロマ湖100kmウルトラマラソン ⇒中止	6/27(日)	湧別総合体育館裏	100kmスタート午前5時00分(100kmの部)総合体育館裏(東道路上) ※スマートフォン用のランニングアプリを活用した代替大会を実施。	負担金3,000千円	900千円	密集回避の対応が極めて困難で、大会参加者はもとより、大会運営にご尽力いただく審判員、ボランティアスタッフ、開催地域の健康と安全を確保するため中止。 【サロマ湖100kmウルトラマラソンオンラインチャレンジ】 ①1day100km 6月27日(日) 参加者 170名、完走者 112名、完走率65.8% ②1day 50km 6月27日(日) 参加者 279名、完走者 218名、完走率78.1% ③2weeks 100km 6月27日(日)～7月10日(土) 参加者5,269名、完走者4,597名、完走率87.2%	9-1 9-2 9-3 9-4
	湧別町少年柔道大会「上野カップ2021」 ⇒中止	10/9(土) ～10(日)	湧別総合体育館・武道館	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野姉妹のほか、現役の女子柔道の著名人を招致する予定。	歳入総額 700千円 歳出総額 3,410千円	0円	新型コロナウイルス感染症拡大の影響が続いており、道内各地から多くの参加者が町内に集まることにより、万全な感染予防対策がとれないこと、三密や身体接触が避けられず感染リスクが回避できないことや集団感染(クラスター)の恐れがあることなどの理由から、令和3年10月9日(土)・10日(日)に開催予定であった本大会の開催を中止。	

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等	中期計画 推進項目
開大 催会 等の	町民体カテスト ⇒中止	11月	文化センターさざ波	町民に対してスポーツや運動を継続して続けることの大切さや健康づくりを高めるきっかけづくりを図る。	スポーツ推進委員 報酬16千円	0円	ふれあいゆうべつ元気まつり(健康づくり推進協議会)の事業と連携していたが、実施しないため中止。	
	第46回町民300歳バレーボール大会	12/5(日)	湧別総合体育館他	自治会対抗形式9人制バレーボール大会	消耗品28千円 食糧費33千円	消耗品16千円 食糧費7千円	5チーム 70名参加 優勝:錦町、準優勝:屯市、3位南町	
ス ポ ー ツ 教 室 ・ 講 習 会 事 業	【新規】 ボルダリング体験 教室 ⇒中止	12月～3月	中湧別総合体育館	ボルダリングの基礎を学び楽しみ方を味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師:遠軽高校山岳部監督 畑野 和宏 氏 対象:小学生	講師謝礼 10千円	0円	予定していた時期がまん延防止等重点措置期間であったため、延期も検討したが講師の都合がつかず中止。	
	【新規】 スラックライン体験 教室	11/14(日)	中湧別総合体育館	スラックラインの基礎を学び楽しみ方を味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師:北海道スラックライン代表 山森 和也 氏 サポート: // 副代表 山森千恵子 氏 アマチュア全国1位 山森 さほ 氏 対象:小学生の部・中学生以上の部	講師謝礼 60千円	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬20千円	小学生の部 14名 中学生以上の部 4名(中学生3名、一般1名)	9-1 9-2 9-3 9-4
	町民ランニング教室 ⇒中止	9月	文化センターTOM・上湧別百年記念広場	基本姿勢から高度な技術、さらには運動前後のストレッチを習得することで、運動能力の向上や怪我の予防、運動を始めるきっかけづくりを図る。 講師:作, AC北海道代表 作田 徹 氏 作, AC北海道 菊地 真司 氏 // 澤井 玄 氏 サポート:北海学園大学陸上部 対象:午前の部:中学生以上対象(初心者、中・上級者) 午後の部:小学1年生～6年生対象	講師謝礼 120千円	0円	講師が札幌市内であり、予定していた時期が緊急事態宣言中であったため、延期も検討したが講師の都合がつかず中止。	
ス ポ ー ツ 教 室 ・ 講 習 会 事 業	ジュニアスイミング スクール	7/13(火) ～16(金)	湧別プール(第1回)	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。 講師:トッカーリ湧波会 野口美代子 氏 藤田 千秋 氏	講師謝礼 48千円	48千円	7/13・14:1年生の部(18名)36名、3～6年生の部(17名)29名 7/15・16:2年生の部(12名)23名	9-1 9-2 9-3
		8/24(火) ～27(金)	湧別プール(第2回)				8/24・25:1年生の部(14名)25名、3～6年生の部(9名)15名 8/26・27:2年生の部(10名)19名	
ス ポ ー ツ 教 室 ・ 講 習 会 事 業	少年少女初心者スケート教室	R4. 1月予定	芭露スケートリンク	初心者に対してスケートの楽しさを味わわせるとともに、技法を習得させる。	講師謝礼 12千円	6千円	1/11(23名)、1/12(吹雪のため中止)、1/13(25名)	
	クロスカントリースキー教室 ⇒中止	R4. 2月予定	五鹿山スキー場	スキーの楽しさを味わわせるとともに、初心者から上級者まで幅広い技法を習得させる。 講師:NPO法人北海道ライフスタイルスポーツ推進協会 理事長 島田 武彦 氏	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬7千円	0円	講師が札幌市内であり、予定していた時期がまん延防止等重点措置期間であり、延期も検討したが町内の感染状況もよくないため中止。	
	健康運動教室	4月～3月	湧別総合体育館	トレーニング器具等を使った個人(または集団や団体)指導を行うことにより町民に健康維持増進と体力の向上を図る。 担当:運動指導職員 原 菜敏	-	-	4月参加者27名、6月参加者13名(6/26のみ)、7月参加者19名、8月参加者11名(8/21のみ)、9月中止、10月参加者20名、11月参加者16名、12月参加者22名、1月参加者10名(1/15のみ) 2月中止、3月12日中止、26日 名	9-1 9-2 9-3
運動指導	4月～3月	湧別総合体育館他	①湧別総合体育館トレーニングルーム指導 水・金(9:00～11:00) 火・木(14:00～16:00) ※曜日・時間は変更する可能性有 ②個別運動相談・トレーニングメニュー作成 ③保健福祉分野との連携	-	-	4月参加者51名、5月参加者14名(7日、11日、13日のみ)、6月参加者6名(22日、24日のみ)、7月参加者18名、8月参加者25名、9月中止、10月36名、11月42名、12月39名、1月25名、2月中止、3月 名		

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等	中期計画 推進項目
スポーツ 推進 委員 事業	チャレンジスポーツ スクール事業	5月～3月	湧別総合 体育館他	低学年から様々なスポーツに触れることで、自分に 合ったスポーツを見つけ出すきっかけづくりと、学校 を越えた友達づくりの一助とする。 5月 入学式・五鹿山マラソン(五鹿山スキー場) 6月 軽スポーツ(湧別総合体育館) 7月 お楽しみ会(湧別総合体育館) 8月 フットベースボール(湧別総合体育館裏) 9月 パークゴルフ(湧別運動公園) 10月 風船ハレー・ミニハレー(湧別総合体育館) 11月 室内雪合戦(湧別総合体育館) (湧別総合体育館) 12月 フロアボール(湧別総合体育館) 1月 スケート体験・氷上ホッケー (巴露スケートリンク) 2月 タグラグビー(湧別総合体育館) 3月 ミニ運動会・卒業式(湧別総合体育館)	講師謝礼 パークゴルフ 5千円 フロアボール 10千円 タグラグビー 5千円 スポーツ推進委員 報酬269千円	講師謝礼 10千円 スポーツ推進委員 報酬100千円	5月 9日 入学式・五鹿山マラソン : 36名 6月26日 軽スポーツ : 29名 7月31日 お楽しみ会 : 30名 8月28日 フットベースボール : 中止 9月11日 パークゴルフ : 中止 10月16日 風船ハレー・ミニハレー : 34名 11月 6日 室内雪合戦 : 20名 12月11日 フロアボール : 26名 1月22日 スケート体験・氷上ホッケー : 中止 2月19日 タグラグビー延期 : 延期 3月26日 タグラグビー・卒業式 :	9-1 9-2 9-3
	巡回スポーツ指導	随時	町内	自治会・老人クラブ等の要請に基づき、スポーツ 推進委員が出向き、軽スポーツやレクリエーション の指導を行う。	スポーツ推進委員 報酬13千円	0円		9-2 9-3
	スポーツ推進委員 研修	随時	管内 道内	町民のスポーツ活動の的確な支援を行うため、研 修を通じて委員としての資質向上を図る。 遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会 オホーツク管内社会体育振興セミナー 北海道スポーツ推進委員研究協議会	スポーツ推進委員 報酬122千円 費用弁償98千円	スポーツ推進委員 報酬13千円	北海道スポーツ推進委員研究協議会⇒中止 オホーツク管内社会体育振興セミナー兼遠軽・紋別ブロックスポーツ推進委員等研修会 10月30日 佐呂間町民センター 集會室 : 3名	9-2 9-3
団体活動の 育成援助等	少年スポーツ団体の 育成援助	年間	-	少年団本部への補助	補助金600千円	補助金600千円		9-2 9-4
	一般スポーツ団体の 育成援助	年間	-	体育協会への補助	補助金735千円	補助金735千円		
	大会出場助成	年間	-	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助 成する。(湧別町スポーツ・文化遠征費補助金)	補助金2,000千円	補助金1,190千円	16件	
	合宿誘致助成	年間	各施設	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を 図る。 (湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金)	補助金1,378千円 詳細は別紙関連事 業に記載のとおり	0円		
施設の 整備 活用 その他	施設の整備	年間	各施設	施設の点検、適正な維持管理を図る。	詳細は別紙社会教育施 設整備計画のとおり		別紙社会教育施設整備計画のとおり	9-4
	施設の活用	年間	各施設	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監 督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設 の有効活用を図る。	学校開放運営報償 90千円	0円	学校開放については、新型コロナウイルスの影響による児童・生徒の安全確保のため中止。	
その他	スポーツ安全保険 の加入促進	随時	-	広報及び事故手続き等の補助	-	-		9-2

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等	中期計画推進項目
図書館	図書館資料の収集、整理、保存	通年	両館	両館を特徴付けた選書を行い、それぞれに蔵書を区分し保存する。 ・資料等計画的に幅広く豊富に備え、適切な蔵書構成を維持する。	資料費(図書、雑誌、新聞、視聴覚) 8,271千円		蔵書冊数 図書 中湧別 74,343冊+湧別 67,437冊=141,780冊 雑誌 中湧別 824冊+湧別 1,146冊=1,970冊 視聴覚資料 中湧別 1,075点+湧別 1,715点=2,790点	7-1
	利用促進、読書機会の提供	通年	両館	調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。			・本館貸出人数 中湧別 6,281名+湧別 3,250名=9,531名 (前年比較 中湧別 93.9% 湧別 98.2%) ・本館貸出冊数 中湧別 26,392冊+湧別 14,107冊=40,499冊 (前年比較 中湧別 95.4% 湧別 102.8%)	7-2
				新着図書案内や図書館行事など、最新情報の提供に努める。 ・読書通帳提供 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの活用			・ブックガイド発行、配布 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの更新	7-2
				来館が困難な町民に対して宅配便を活用して個別に配送貸出を行う。 ・宅配貸出サービス			登録者 2名 延べ利用数 334冊	7-2
	ブックスタート	毎月1回	健診会場	4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタートバック(絵本などが入ったバック)をメッセージと共に手渡す。また、5歳児健診時には絵本を1冊とブックガイドを渡す。 協力(バック制作) ・ルピナスの会 協力(読み聞かせ) ・リーディング倶楽部たんぽぽ ・湧高ボランティア部	資料費(絵本) 130千円		・ブックスタート 41組 ・ブックスタートプラス 44組	7-2
	絵本くらぶ	年間 (毎月1回)	両館	3歳までの乳幼児がいる家庭におすすめ本セットを宅配する。(登録制)			登録者 18名 延べ利用数 187名 935冊	7-2
	移動図書館車の運行	通年	両館	移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。 図書館職員が選本した文庫を配本する。 ・各小中学校、義務教育学校、湧別高校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等			・個人団体貸出冊数 22,495冊 内訳 個人 6,842冊(前年比較 124.8% 昨年5月連休) 団体15,653冊(前年比較 99.2%)	7-3
	学校図書館支援	通年	町内学校	・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館レイアウト相談 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学の受入 ・職場体験の受入 ・読書オリエンテーション ・家読おすすめ絵本リスト作成配布			・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・調べ学習用図書整備 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学(芭露学園、湧別小、富美小、中湧別小、上湧別小) ・読書オリエンテーション(10/5、10/13) ・職場体験(湧別高校、上湧別中学校、芭露学園、湧別中学校)	7-4
	映画上映会	年2回	湧別図書館	湧別図書館の多目的室を活かし映画会を行う。	消耗品 50千円(DVD)		・休止中	7-2 7-3

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等	中期計画推進項目
図書館	古本コーナー	通年	両館	古本、古雑誌のリサイクル活動。			ロビー等にて実施 累計利用数 中湧別 1,875冊 湧別 2,868冊	7-2 7-3
	特別展示	9月～10月	両館	町民大学講師著作展示			町民大学講師著作展示	7-2 7-3
		年間	両館	テーマ：年中行事			子どもの日、北斎、星野道夫、母の日、本屋大賞、チューリップ、天気、父の日、Iリック・カル、ももんちゃん、ようちえん絵本大賞、七夕、かわいのおぼけ、ハロウィン、上半期ランキング、きのこどんぐり、クリスマス、川、日本絵本賞、スープ、お正月、牛乳レシビ、大河ドラマ、節分、絵本屋さん大賞、ひなまつり、本屋大賞、追悼特集、ねこ、レシビ本大賞	
		4/23～5/10	両館	子ども読書週間			絵本「リサとガスバル」(中湧別図書館) 絵本貸出ベスト50(湧別図書館)	
		10/27～12/5	両館	読書週間			大人の怪談 10/23～11/21 中湧別図書館 幻の湧別運河 10/27～11/14 湧別図書館	
		7/2～7/13	中湧別図書館	絵本原画展示「ためぎの花よめ道中」	著作物使用料 30千円	著作物使用料 8千円	絵本原画巡回展 7/2～7/13	
年間	両館	協力展示(展示スペースの貸出)	—	—	食生活サポート、教科書、日ハムキャンペーン、町民大学、地域おこし隊フォトブック			
活動	連携・ネットワーク	通年	両館	ボランティア、サークル育成 ・読み聞かせ活動支援(りんごっこ、リーディング倶楽部たんぽぽ、湧別高校ボランティア部) ・読書推進活動支援「オープンブックカフェ」			適切なコロナ対策を確立出来ないため、活動を休止している。	7-4
		年3回	児童センター	児童センター事業支援 ・読み聞かせ会参加協力、読書推進事業の実施				
		会議3回 研修2回	湧別図書館	図書館協議会 ・定例会議 ・委員視察研修 (遠紋ブロック研修会:紋別市) (オホーツク管内公共図書館協議会:端野)			第1回会議 7/8 出席委員 6名 第2回会議 10/29 出席委員 5名 研修会 12/8 出席委員 3名 第3回会議	
		7月～9月	両館	・北海道教育委員会主催「本を読んでファイターズを応援しよう」キャンペーン参加			青少年のための200冊展示 7月～9月 参加者17名	
文化財保護活動	文化財の保護① 埋蔵文化財	年間	町内各所	○開発行為に伴う埋蔵文化財の保護事業 ・開発事業者との事前協議 ・所在調査、試掘調査 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認作業(遺跡パトロール) ・周知資料(台帳等)の整備 ○シブノツナイ竪穴住居跡の調査 ・発掘調査:竪穴住居跡の年代等内容確認 *7月中旬～8月中旬予定 ・発掘調査概要報告書の刊行 ○シブノツナイ竪穴住居群調査検討委員会の開催 ・有識者3名、国・道の担当者2名程度 ・夏と冬の2回開催			○開発行為に伴う埋蔵文化財包蔵地の保護活動 ・埋蔵文化財包蔵地の照会:19件 ・事前協議8件(協議継続中2件) ・所在調査5件 ・試掘調査3件(道教委支援1件) ・新発見遺跡:福島団体7遺跡 ・工事立会2件、慎重工事1件 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 ・現状確認作業(遺跡パトロール)随時実施 ・周知資料(台帳等)の内容確認と修正 ・道史跡内の国有地の取得(2筆) ○シブノツナイ竪穴住居群の保護 ・遺跡の内容詳細を把握するための発掘調査 7月15日～8月11日 ・令和3年度発掘調査概要報告書の刊行(3月20日予定) ○シブノツナイ竪穴住居群調査検討委員会の開催 第一回:7月21日開催、委員3名、道教委担当者1名、町教委4名 第二回:2月22日開催(オンライン併用)委員3名、道教委担当者1名、町教委4名 文化庁調査官現地指導:10月14～15日	8-1
	文化財の保護② 自然関連	年間	町内各所	○北海道指定文化財アッケシ草群の経過観察 ○天然記念物の手続(死亡・はく製・調査) ・オジロワシ ・タンチョウ ○記念木業務における関連部署との調整			○北海道指定文化財「佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落」の経過観察 ・経過観察の実施(9月) ○天然記念物の手続(死亡・はく製・調査) ・0件 ○記念木 ・1件(総合体育館敷地記念木:枝の伐採)	8-1
博物館資料① 収集	年間	郷土館・ふるさと館JRY	【開拓関連資料】 ○資料寄贈への対応 【考古資料】 ○発掘調査に伴う出土資料の文化財認定と譲与申請			○博物館資料の寄贈受入 ・寄贈資料受入11件(せんべい焼型ほか) ○文化財の認定と取得 ・埋蔵文化財の譲与申請:令和2年度発掘調査出土資料	8-1	

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等	中期計画推進項目
博物館活動	博物館資料②整理・保管	年間	郷土館・ふるさと館JRY・収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> ○考古資料 <ul style="list-style-type: none"> ・三宅コレクションの整理 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理 ○開拓関連資料 <ul style="list-style-type: none"> ・保存環境の整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 <ul style="list-style-type: none"> ・金属資料の清掃整理(防さび塗料塗布) ・ガラスネガの写真的清掃整理 ・資料外保管物の処分 ・JRY収蔵量増加 ・資料移動(旧邑小体育館) ○収蔵資料の特別利用許可に関する業務 			<ul style="list-style-type: none"> ○考古資料 <ul style="list-style-type: none"> ・三宅コレクションの整理と台帳整備 ・シブノツナイ竪穴住居群出土資料の整理 ○開拓関連資料 <ul style="list-style-type: none"> ・保存環境の整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 <ul style="list-style-type: none"> ・金属資料の清掃整理(防さび塗料塗布) ・ガラスネガの写真的整理、展示準備 ・資料外保管物の処分 ・JRY収蔵量増加 ・資料移動(旧邑小体育館) ○収蔵資料の特別利用許可 <ul style="list-style-type: none"> ・2件(ナウマンソウ化石など) 	8-1
	調査研究	年間	—	<ul style="list-style-type: none"> 【博物館資料(開拓期)の保存・活用】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> ◎屯田資料 ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の系統化 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活 【埋蔵文化財の保存・活用、博物館教育】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> (主にシブノツナイ竪穴住居群) ・竪穴住居跡の年代と集落形成に関する研究 ・北海道考古学会 研究大会発表(5月) ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡を活用した博物館教育の実践的研究 			<ul style="list-style-type: none"> 【博物館資料(開拓期)の保存・活用】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> ◎屯田資料、絵ハガキ ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の系統化 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活 【埋蔵文化財、博物館教育】 ・事例分析:シブノツナイ竪穴住居群と他の竪穴住居群の比較分析 ・科学分析:シブノツナイ竪穴住居跡等出土資料の科学分析 <ul style="list-style-type: none"> ①火山灰同定 岡孝雄(調査検討委員)、アースサイエンス ②炭化物年代測定 國木田大(調査検討委員)、ハレオ・ラボ ③土器胎土分析 今泉和也(日本学術振興会特別研究員) ・教材研究:遺跡散策ガイドブック『遺跡のミカタ』の更新 ・事例発表:題目「湧別の大規模竪穴群」 北海道考古学会研究大会『北海道に残る2万3千の竪穴』9月25日(オンライン開催) 	8-1
	展示	年間	郷土館	<ul style="list-style-type: none"> ○収蔵資料の展示 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の発掘調査成果展(仮) ○郷土館協力員(旧ボランティアガイド) <ul style="list-style-type: none"> ・展示解説(7月～8月、団体見学日など) 			<ul style="list-style-type: none"> ○展示 <ul style="list-style-type: none"> ・シブノツナイ竪穴住居群 令和2年度調査速報展:6月25日から12月26日まで ○郷土館協力員 <ul style="list-style-type: none"> ・ガイド活動:中止(例年は5月～9月に実施) ・100キロマラソン前日の展示解説会:中止 ・研修会:中止(例年、発掘調査や近隣の博物館を視察) ・上野カップ当日の展示解説会(中止) ○入館者数(2月末時点) <ul style="list-style-type: none"> ・139人(大人126人、内町民23人、幼児～高校13人、内町民13人) 	8-2
		年間	ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示更新 <ul style="list-style-type: none"> ・解説パネルの追加 ・資料名表示の更新 ・地学資料の整理展示 ○収蔵展示室整備 			<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示更新 <ul style="list-style-type: none"> 薄荷葉の展示 ◎企画展示「絵葉書に見る樺太の記憶」 <ul style="list-style-type: none"> 期間:7月1日～8月20日 場所:文化センターさざ波 町民ギャラリー 連携協力事業:オホーツク管内博物館連絡協議会、宗谷管内学芸職員連絡協議会 ○入館者数(2月末時点) <ul style="list-style-type: none"> 1,020人(大人653人、内町民127人、幼児～高校367人、内町民129人) 	8-2

令和3年度社会教育事業実績、反省評価について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	実績額	実績(状況)等	中期計画推進項目
博物館活動	博物館教育① 学校授業・研修会・講座	年間	郷土館・ふるさと館JRY	<p>【学校授業・研修会・講座】</p> <p>○開拓の歴史 (博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習として実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働体験(鋸・斧・鉋) ・炊飯体験(薪ストーブ・羽釜) ・開拓期の衣体験 ・田舎裏疑似体験(屯田生活体験館) <p>○博物館親子講座</p> <p>○先史文化 (地域の財産である遺跡に触れ、親しむ機会の提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先史の工夫を体験するモノづくり学習(土器・勾玉) ・遺跡に親しむフィールドワーク ・遺跡の知識を深める考古学関連講座 <p>発掘調査報告会 →11月予定 *調査成果に応じて実施を判断する</p> <p>○発掘調査現地説明会の開催(主に学校を対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学と発掘調査を通じた連携 			<p>【学校授業、研修会等の学習機会提供】</p> <p>○授業及び展示解説実績(2月末時点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ふるさと館JRY: 28件441人(内学校: 20件348人) ②郷土館: 3件33人(内学校: 2件31人) ③出張講演: 12件4937人(内学校: 10件423人) ④施設利用: 9件230人 <p>【講座等】</p> <p>○親子講座(発掘調査現地見学会) 7月30日(土)、参加者2組</p> <p>○令和3年度遺跡調査報告会 11月20日(土)、定員40名(申込39名、参加32名) 講師2名: ①道立北方民族博物館 種石学芸員 ②ふるさと館JRY 林学芸員</p> <p>○講演会(林学芸員) 3月19日(土)定員40名 「歴史再発見・常呂遺跡と竪穴住居-シブノツナイ竪穴住居群から見た北の古代文化-」 北見市北網圏北見文化センター</p>	8-3
	博物館教育② 広報・情報提供	年間	—	<p>【広報・情報提供】</p> <p>○博物館だよりの発行(湧く湧く内、HP)</p> <p>○郷土史に関する情報提供及び質問対応(レファレンス)</p>			<p>【情報公開】</p> <p>○広報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館だよりの発行(湧く湧く内): 4~9月号(136号~141号) <p>○郷土史に関する問い合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内の遺跡、屯田兵祖先調べなど 	8-3

中期計画推進項目の欄は、第2次湧別町社会教育中期計画における推進項目との対応を示すものです。

中期計画における領域	推進項目	表記
第1節 家庭教育	学習機会の提供	1-1
	活動等の支援	1-2
	学習環境づくり	1-3
	連携ネットワーク	1-4
第2節 少年教育	学習機会の提供	2-1
	活動等の支援	2-2
	学習環境づくり	2-3
	連携ネットワーク	2-4
⋮	⋮	⋮
第10節 生涯学習の基盤整備	学習推進体制整備	10-1
	施設整備・活用	10-2
	学習情報収集・相談	10-3
	指導者養成・団体	10-4
	連携ネットワーク	10-5

令和3年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	実績（状況）等	備考
青少年指導者	子ども会フットベースボール大会	7/11 (日)	中湧別小学校		学校開放事業を休止しており、練習場所等の確保が困難であることから6/18役員会において中止を決定。延期については、他の行事予定が既に詰まっていることから、不可能と判断。	
	子ども会交通安全駅伝競走大会	8/29 (日)	開盛小 → 中湧別小	単位子ども会の大会への参加を通して、青少年の健全育成を図ると同時に、地域子ども会活動の促進と、相互の交流を図る。また、監督会議や反省会等を通じ、育成会で構成される組織運営の健全化を図り、地域自治の基盤づくりを支援する。	7/19役員会で実施の可否を協議。感染対策として開会式、閉会式の場所を工夫するなどして開催を決定した。8/11監督会議を開催し、周知参加募集したが、8/30時点で町内や近隣市町村でも感染者が出ていること、申込が3チームのみであることから中止となった。	
	子ども会ミニバレーボール大会	11/21 (日)	中湧別総合体育館 湧別総合体育館		参加チームが少ないため中湧別総合体育館で全試合を実施。 小学生の部：6チーム32名 中学生の部：7チーム34名 (内、湧別サポート協議会3チーム) 10/26監督会議	
	子ども会リーダー研修会	7/28(水) ~29(木) 3/29(水) ~30(木)→ 3/27(日)	五鹿山公園 紋別生涯学習センター 文化センターさざ波	社会教育事業 少年教育参照	社会教育事業 少年教育参照（第1回は中止）	
	中高生リーダーの養成	年間	ふるさと館JRYほか	リーダー研修会の企画運営などを行う、中・高生リーダークラブ「E=QVL（イクアル）」および「Rainbow prop（レインボープロップ）」と、その指導にあたる青少年指導員の活動を支援し、地域づくりやまちづくりに参画できるリーダーの養成を図る。	新型コロナの影響によりリーダー研修会など例年どおりの活動が難しいことから、新規募集は行っていない。代替としてリモート操作を学ぶことを目的とした会として会員募集し、リモートによる活動を行った。 青少年指導員：5名 E=QVL：3名登録 Rainbow prop：1名登録 4/3、7/26、8/30、9/27、10/25、11/20、12/20 ZOOMによるリモート研修	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに健全育成を図る。①あいさつ運動②指導、補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	①あいさつ運動②街頭補導③青少年だより発行	
文化連盟	総合文化祭	芸能の部 10月30日 ⇒中止 展示の部 10月30日 31日 ⇒中止	文化センターさざ波	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	
良いもの見よう聞こう会	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	日時未定 ミッフィーこどもミュージカル ⇒中止 9月17日(金) TOM 清水ミチコ トーク&ライブ2021 ⇒中止	新型コロナウイルス感染症の影響により中止	
ビッグ・ウェーブ	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	未定		
体育協会	ゆうべつ五鹿山マラソン2021	5/9 (日)	五鹿山スキー場	五鹿山スキー場を駆け上がるマラソン大会を実施することにより、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることを目的とする。	一般の部（男子17名・女子7名） 24名 高校生（男子）の部 19名 中学生の部（男子4名・女子1名） 5名 小学生（高学年）の部 6名 小学生（低学年）の部 47名 合計101名	教委、スポーツ推進委員も運営協力

令和3年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	実績（状況）等	備考
実行委員会	チャレンジ・スポーツデー2021(うちチャレ)	5/26 (水)	町内	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進する。	人口8,467人 参加者85人 参加率1.00%	
	チャレンジデー2021	10/27 (水)	町内	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進する。	人口8,467人 参加者2,661人 参加率31.4%	
	札幌合気会合宿 ⇒中止	9月	レイクパレス	町内で合宿を行い、公開練習等を通して町民と交流を図るとともに合気道の普及を図る。 合宿予定人員：30名予定	新型コロナウイルスの感染症の影響により中止	
	日本大学合気道部合宿 ⇒中止	10月	レイクパレス	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：30名予定		
	北柔会関連道場柔道合宿 ⇒中止	10月	湧別総合体育館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室を開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 合宿予定人員：80名（指導者含む）予定		
	湧別原野林ツクカ加サドリスキー大会	R4. 2/27	遠軽町 →湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース95km		

令和3年度社会教育施設整備計画（500千円以上または主要なもの）

（単位：千円）

施設名	改修・整備等内容	事業費	実績額	備考
芭露畜産研修センター	屋上部分防水工事	3,500	3,300	
文化センターさざ波	建物塗装工事（さざ波北面 全5期中4期目）	7,300	6,820	
	ギャラリー内装修繕	500	479	
文化センターTOM	区画線補修工事（北側）	800	566	
湧別総合体育館	トレーニング機器借上（5年リース） トレッドミル、アップライトバイク インパクトチェストプレス インパクトラットプルダウン インステイクトペクトラルフライ/リアデルト インステイクトレッグプレス/カーフ インステイクトレッグエクステンション/カーフ 各1台（合計7台）	1,298	1,190	12ヶ月分
中湧別総合体育館	重油タンク改修工事	4,300	4,180	
中湧別野球場	バックネット等改修工事	10,500	10,120	
湧別屋内ゲートボール場	人工芝張替工事	16,000	15,620	
湧別運動公園	トイレ改修工事	1,280	1,265	
五鹿山PG場	乗用型芝刈り機の購入	3,000	2,530	
ふるさと館JRY	エントランス水銀灯	644	506	
	JRY屋根修繕（ガラスブロック防水）	2,415	2,376	

議案第2号

令和4年度社会教育事業計画、予算について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画推進項目
基盤整備	生涯学習情報の収集・提供・相談体制の充実	年間	—	○情報収集と提供 ・生涯学習情報紙「湧く湧く」の発行（毎月） ・遠軽地区情報紙「なな・なんと情報」の発行（2カ月に1回）（湧別町が当番町） ・町ホームページによる情報の体系的整理と提供 動画による事業記録を収集し活用法を模索 ○相談体制の充実 ・生涯学習に関する相談体制の整備に努める。	「湧く湧く」 印刷製本費 1,212千円	10-1 10-3
	指導者の発掘・養成・活用	年間	—	主体的な学習と地域貢献との好循環をすすめるため、様々な分野から指導者を発掘養成し、その活用を図る。	—	10-4
	団体活動の支援・育成	年間	—	団体リーダーの養成を図るとともに、団体活動が円滑に行われるよう支援を行う。	—	10-4
	生涯学習振興奨励事業	年間	—	グループ・サークル等が主体的に行う講演会や鑑賞会などの学習活動に対して助成を行う。（補助率75%、ただし極めて公益性が高い場合は100%）	3件 300千円	10-4
	施設の整備・運営・連携	年間	—	公共施設再配置計画など上位計画との整合を図りながら、施設の計画的な補修や整備を行うとともに事業連携・施設間連携により学習効果の向上を図る。	別紙施設整備計画のとおり	10-2 10-5
家庭教育	家庭教育研修会	12月	文化センターTOM	家庭教育が困難な現状の共通理解と家庭教育の重要性を啓発するための研修会。講演後に参加者交流会を開催。健康こども課と連携し、ニーズの把握に努め定着を図る。PTA連合会に後援、家庭教育サポート企業に協賛依頼予定。	講師謝礼 100千円 需用費8千円	1-1
	健康こども課との事業協力	年間	—	健康こども課との打合せ会議を開催し、子育て支援センター、子育て世代包括支援センターとの協体制の充実を図る。	—	1-3 1-4
	家庭教育相談	年間	相談室ほか	教育アドバイザーによる子育ての不安や悩みについて身近に相談する機会を提供するため、ホームページの充実を図る。	—	1-2
少年	児童宿泊研修会	6/16(木)～17(金)	ネイパル北見	社会性を培う機会として、全小学校5年生合同で、体験活動を実施。担当教職員の事前打合せと反省会も行い、目的や役割分担の共通理解やノウハウの蓄積を図る。	参加費57千円 (2,500円×1/2×45人) 需用費15千円 バス借上料98千円	2-1 2-4
	子ども会の育成・援助	年間	—	青少年指導センターの活動支援とあわせ、単子子ども会や湧別地区サポート協議会のあり方について指導助言する。	補助金 250千円	2-2
	第1回子ども会リーダー研修会	7/28(木)～29(金)	五鹿山公園	住民自治の基盤ともなる地域子ども会の主体的な活動が進むよう、子ども会のリーダーとしての役割や心構えを学び、そのために必要な知識や技術の習得をめざす。また、青少年指導員の養成と活躍の機会とする。	青少年指導センター会計から支出	2-1 2-2 2-3
	第2回子ども会リーダー研修会	R5.3/28(火)～29(水)	紋別市生涯学習センター			
	教育	百人一首教室	11月～1月 毎週土曜日	農村センター	日本古来の伝統の競技を通して、ルールを守る大切さや礼儀作法を身につける機会とする。教室で継続指導することで、指導者と参加者の地域におけるつながりづくりも目指す。また、指導者の育成を図り実行委員会の活性化を促す。大会は実行委と教委との共催。小1～大人まで対象。	報償費48千円 需用費61千円
第54回新春交歓カルタ大会		R5.1/22(日)				

令和4年度社会教育事業計画、予算について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画 推進項目
少年教育	湧うゆう湧くわく体験塾	年間 (月1回程度)	町内ほか	小学校4～6年を対象に体験の機会を提供し、知的探求心、地域への愛着とコミュニケーション能力を養成する。また、成人ボランティアの指導を仰ぐことで地域の教育力活用を図る。	報償費35千円 需用費20千円	2-1 2-2 2-4
	湧別町・新篠津村友好都市少年交流事業	8/2(火)～ 4(木)	五鹿山 キャンプ 場ほか (受入年)	自然や産業体験活動など、児童の派遣と受入の交流を毎年交互に行うことで、お互いのまちの魅力を学ぶとともに交流の輪を広げる。小学校5～6年およびリーダーとして中・高校生も参加。小学生は参加経費の半額、リーダーは全額町負担。	報償費180千円 需用費150千円 保険料16千円 入浴料39千円	2-1 2-2 2-4
青年教育	青年団体の育成・援助	年間	青年会館 ほか	子どもを対象とした冬季事業、屯田セタまつりでの出店などを行っている湧別町青年団体協議会を支援し、将来の地域のリーダー育成を図る。	補助金 160千円	3-1 3-2 3-3 3-4
	令和5年20歳の集い	R5.1/8 (日)	文化センターさざ波	20歳を迎えた若者を祝い励ますとともに、社会人としての意識高揚を図る。町主催、教委主管。成年年齢引き下げ(R4)後も20歳を対象とする。 ※軽食ボランティアとの協働 ※現小学6年生に「20歳の自分へ」の作文収集	報償費415千円 需用費41千円	3-1
成人教育	第46回湧別町民大学	9月～11月 全5回	文化センターTOM	有志実行委員会組織主催。各ジャンルの講師を招き、今日的課題や地域課題等の解決に向けた学習機会を提供する。団体とのコラボ企画や、勤労世代の参加促進にも努める。町PTA連合会との連携事業。	運営費助成 2,000千円	
	第12回ふるさと講座	11月	未定	町の人を講師に、地域の価値を学び共感する機会提供のための座学講座。郷土学サークル「ふるさとから学ぶ会」との共催で行う。今回のテーマは「オホーツク海」	講師謝礼 20千円	4-1 4-2 4-3 4-4
	第10回我がまち湧別町のお宝をたずねる旅	5/14 (土)	五鹿山公園	普段見落としがちな町の価値(＝お宝)を、それに詳しい講師の案内によってバスツアー形式でたずね歩き価値を共有する。昨年、一昨年中止となった「五鹿山」の魅力を体感する企画	講師謝礼10千円 借上料55千円	
	PTA団体への援助	年間	—	各学校のPTAやその連合組織である町PTA連合会の学習活動を支援する。	補助金 180千円	4-2 4-4
	ボランティア団体との連携	年間	文化センターさざ波ほか	はまなすボランティアなど自主的な奉仕活動を支援する。	—	4-2 4-4
高齢者教育	チューリップ生きがい大学の開設	年間 (月1回程度)	文化センターTOM・さざ波ほか	高齢者が充実した生活を送られるよう学習活動の機会を提供する。自主活動としてのクラブ活動も支援する。	報償費252千円 需用費36千円 印刷製本費83千円 借上料629千円	
	世代間交流事業・社会活動参加奨励	年間	学校ほか	学校からの求めに応じ、小中学校の総合的な学習への支援など高齢者の持つ豊かな知恵・技術を活用する場の提供に努めるとともに相互の交流を図る。	—	5-1 5-2 5-3 5-4
	【新規】アクティブシニア向け新規事業	年間	文化センターさざ波ほか	自分に興味があるジャンルについて3カ月単位で学ぶ「短期大学事業」、自ら設定した学習状況などを教育アドバイザーが定期的に指導する「通信制大学事業」、資格にとらわれず特技や趣味を活かした「人材バンク事業」を実施し、アクティブシニアの新たな学習の機会を提供する。	—	
芸術の振興・文化活動	文化団体の育成援助	年間	—	芸術文化活動の振興を図るため文化連盟等の育成援助を行う。	補助金 350千円	6-2 6-4
	鑑賞機会提供団体の育成援助	年間	各文化センター	A.良いもの見よう聞こう会の活動支援 B.企画委員会ビッグ・ウェーブの活動支援 C.その他実行委員会等への活動支援	補助金 8,000千円	6-1 6-2 6-4
	幼児芸術鑑賞会	未定	文化センター・児童センター	幼児対象(2日2公演) 公演内容 未定	公演料 500千円	6-1

令和4年度社会教育事業計画、予算について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画 推進項目
芸術文化活動の振興	児童芸術鑑賞会	9/8(木)	文化センターさざ波	小学生全学年対象(1日1公演又は2公演) 公演内容 「海底2万マイル」劇団ボブラ ※町内小学校・学園前期5～6年生の紋別市鑑賞会の参加は未定。令和4年度開催未定。	公演料 825千円	6-1
	中学生芸術鑑賞会	10/5(水)	文化センターさざ波	中学生全学年対象(1公演) 公演内容 「真夏の夜の夢」(株)笑う猫文化事業局	公演料 500千円	6-1
	一般芸術鑑賞会	未定	文化センターさざ波	町民対象(1公演) 公演内容 寄席公演を予定 (株)影向舎	公演料 3,500千円	6-1
	子どもアート体験事業	未定	未定	国内外で活躍するアーティストが学校や文化施設に出向き、子ども達と一緒にワークショップや創作活動を行い交流する事業。 ※北海道文化財団募集事業⇒申請中(採択結果は4月)	—	6-1
	文化芸術作品展示会等の奨励	年間	文化センター	湧別町文化連盟加盟団体や町民個人を中心に、絵画や写真などの展示を実施し、芸術文化活動の振興を図る。	—	6-2 6-3 6-4
	カルチャー教室	年間	町内施設	子どもから大人までを対象に興味や一般教養など町民のニーズに合った講座等の開催に努める。	講師謝礼 80千円	6-1
大会の開催等	第37回サロマ湖100kmウルトラマラソン	6/26(日)	湧別総合体育館裏	100kmスタート午前5時00分(100kmの部) 総合体育館裏(東道路上)	負担金3,000千円	
	湧別町少年柔道大会「上野カップ2022」	10/8(土)～9(日)	湧別総合体育館・武道館	本町のふるさと応援大使であり、柔道オリンピックメダリストの上野姉妹の冠を掲げた全道規模の小・中学生の柔道大会を開催することにより、少年相互の親睦を深め、町の活性化や交流人口の増加を図る。 参加規模：道内外小・中学生400名 大会には上野姉妹のほか、現役の女子柔道の著名人を招致する予定。	歳入総額 2,986千円 参加料700千円 スポーツ振興くじ 2,286千円 歳出総額 3,593千円	9-1 9-2 9-3 9-4
	第47回町民300歳バレーボール大会	12/4(日)	湧別総合体育館	自治会対抗形式9人制バレーボール大会	消耗品31千円 食糧費33千円	
スポーツ教室・講習会事業	町民ランニング教室	5/22(日)	百年記念広場	基本姿勢から高度な技術、さらには運動前後のストレッチを習得することで、運動能力の向上や怪我の予防、運動を始めるきっかけづくりを図る。 ①ランニング教室(成人) ②陸上教室 講師：作、AC北海道代表 作田 徹 氏 作、AC北海道 菊地 真司 氏 作、AC北海道 澤井 玄 氏 サポート：北海学園大学陸上部 対象：小学生～一般	講師謝礼 120千円	9-1 9-2 9-3
	ボルダリング体験教室	5月～6月	中湧別総合体育館	ボルダリングの基礎を学び楽しみ方を味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師：遠軽高校山岳部監督 畑野 和宏 氏 対象：小学生	講師謝礼 10千円	
	スラックライン体験教室	5月～6月	中湧別総合体育館	スラックラインの基礎を学び楽しみ方を味わわせるとともに、技法を習得させる。 講師：北海道スラックライン代表 山森 和也 氏 対象：小学生～一般	講師謝礼 60千円	

令和4年度社会教育事業計画、予算について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画 推進項目
スポーツ教室	スラックライン体験教室	5月～6月	中湧別総合体育館	スラックラインの基礎を学び楽しみ方を味わせるとともに、技法を習得させる。 講師：北海道スラックライン代表 山森 和也 氏 対象：小学生～一般	講師謝礼 60千円	9-1 9-2 9-3
	ジュニアスイミングスクール	7月、8月	湧別プール	正しい泳法を習得させるとともに、泳ぐことの楽しさを味わわせ、水泳の普及拡大を図る。	講師謝礼 48千円	
	【新規】 ニュースポーツ deあそぼ	9月～11月	湧別総体 他	町内の成人層を対象にスポーツを通じて健康や体力づくりを高めるきっかけづくりと新しいスポーツの普及や地域の活性化を図る。 指導者 運動指導職員 原 茉畝 月2回（9月～11月予定）ニュースポーツ等を実施。	—	
	少年少女初心者スケート教室	R5. 1月予定	芭露ス ケートリ ンク	初心者に対してスケートの楽しさを味わせるとともに、技法を習得させる。	講師謝礼 12千円	
	クロスカントリースキー教室	R5.2/4 (土)	五鹿山ス キー場	スキーの楽しさを味わせるとともに、初心者から上級者まで幅広い技法を習得させる。 講師：NPO法人北海道ライフスポーツ推進協会 理事長 島田 武彦 氏	講師謝礼 60千円 スポーツ推進委員 報酬7千円	
講習会 事業	健康運動教室	4月～3月	湧別総合 体育館	トレーニング器具等を使った個人（または集団や団体）指導を行うことにより町民に健康維持増進と体力の向上を図る。 担当：運動指導職員 原 茉畝	—	—
	運動指導	4月～3月	湧別総合 体育館他	①湧別総合体育館トレーニングルーム指導 水・金（9：00～11：00） 火・木（14：00～16：00） ※曜日・時間は変更する可能性有 ②個別運動相談・トレーニングメニュー作成 ③保健福祉分野との連携	—	
	チャレンジスポーツスクール事業	5月～3月	湧別総合 体育館他	低学年から様々なスポーツに触れることで、自分に合ったスポーツを見つけ出すきっかけづくりと、学校を越えた友達づくりの一助とする。 5月 五鹿山マラソン・入学式（湧別総合体育館） 6月 フットベース（湧別総合体育館裏） 7月 キャンプ（湧別総合体育館裏） 8月 室内雪合戦（湧別総合体育館） 9月 パークゴルフ（湧別総合体育館） 10月 風船バレー・ミニバレー（湧別総合体育館） 11月 カローリング・ハッピーボーリング・バタンク（湧別総合体育館） 12月 フロアボール（湧別総合体育館） 1月 スケート体験・氷上ホッケー（芭露スケートリンク） 2月 タグラグビー（湧別総合体育館） 3月 ミニ運動会・卒業式（湧別総合体育館）	講師謝礼 パークゴルフ 5千円 フロアボール 10千円 タグラグビー 5千円 スポーツ推進委員 報酬269千円	
委員 事業	巡回スポーツ指導	随 時	町 内	自治会・老人クラブ等の要請に基づき、スポーツ推進委員が出向き、軽スポーツやレクリエーションの指導を行う。	スポーツ推進委員 報酬13千円	9-1 9-2 9-3
	スポーツ推進委員研修	随 時	管内 道内	町民のスポーツ活動の的確な支援を行うため、研修を通じて委員としての資質向上を図る。 遠軽・紋別地区スポーツ推進委員研修会 オホーツク管内社会体育振興セミナー 北海道スポーツ推進委員研究協議会	スポーツ推進委員 報酬122千円 費用弁償98千円	

令和4年度社会教育事業計画、予算について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画 推進項目
団体活動の育成援助等	少年スポーツ団体の育成援助	年間	-	少年団本部への補助	補助金600千円	9-2 9-4
	一般スポーツ団体の育成援助	年間	-	体育協会への補助	補助金735千円	
	大会出場助成	年間	-	全道大会以上の出場者に対して遠征費の一部を助成する。(湧別町スポーツ・文化遠征費補助金)	補助金2,000千円	
	合宿誘致助成	年間	各施設	合宿を誘致することにより町のスポーツの振興を図る。(湧別町スポーツ・文化合宿誘致事業補助金)	補助金1,464千円 詳細は別紙関連事業に記載のとおり	
施設の整備活用	施設の整備	年間	各施設	施設の点検、適正な維持管理を図る。	詳細は別紙社会教育施設整備計画のとおり	9-4
	施設の活用	年間	各施設	指定管理施設の適正かつ効率的な運営に対する監督、学校開放施設に関する利用調整など体育施設の有効活用を図る。	学校開放運営報償 120千円	
その他	スポーツ安全保険の加入促進	随時	-	広報及び事故手続き等の補助	-	9-2
図書館	図書館資料の収集、整理、保存	通年	両館	両館を特徴付けた選書を行い、それぞれに蔵書を区分し保存する。 ・資料等計画的に幅広く豊富に備え、適切な蔵書構成を維持する。 ・貴重資料のデジタル保存	資料費(図書、雑誌、新聞、視聴覚) 8,270千円	7-1
	利用促進、読書機会の提供	通年	両館	第3次社会教育中期計画策定 第2次子どもの読書活動推進計画の策定		7-2
				調べものの相談、案内を通して利用促進を行う。		7-2
				新着図書案内や図書館行事など、最新情報の提供に努める。 ・読書通帳提供 ・図書館だより、新着図書案内の発行 ・ホームページの活用		7-2
				来館が困難な町民に対して宅配便を活用して個別に配送貸出を行う。 ・宅配貸出サービス		7-2
活動	ブックスタート	毎月1回	健診会場	4ヶ月児健診時に、乳児とその保護者へブックスタートバック(絵本などが入ったバック)をメッセージと共に手渡す。また、5歳児健診時には絵本を1冊とブックガイドを渡す。 協力(バック制作) ・ルピナスの会 協力(読み聞かせ) ・リーディング倶楽部たんぽぽ ・湧高ボランティア部	資料費(絵本) 142千円	7-2
	絵本くらぶ	年間 (毎月1回)	両館	3歳までの乳幼児がいる家庭におすすめ本セットを宅配する。(登録制)		7-3

令和4年度社会教育事業計画、予算について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画 推進項目
図書館	移動図書館車の運行	通年	両館	移動図書館車で町内を巡回し、広域サービスを実施する。機動性を活かし遠隔地域を中心に据え、子どもから大人まで図書に出会う場を広げ、読書活動の推進を図る。 図書館職員が選本した文庫を配本する。 ・各小中学校、義務教育学校、湧別高校 ・各郵便局 ・児童施設 ・高齢者施設等		7-4
	学校図書館支援	通年	町内学校	・クラス配本 ・学校図書館用図書の購入支援 ・学校図書館レイアウト相談 ・学校図書館蔵書管理、蔵書計画 ・図書館見学の受入 ・職場体験の受入 ・読書オリエンテーション ・家読おすすめ絵本リスト作成配布		7-2 7-3
図書館	古本コーナー	通年	両館	古本、古雑誌のリサイクル活動。		7-2 7-3
	特別展示	9月～10月	両館	町民大学講師著作展示		7-2 7-3
		年間	両館	テーマ：年中行事		
		4/23～5/10	両館	子ども読書週間		
		10/27～12/5	両館	読書週間		
		未定	中湧別図書館	絵本原画展示	著作物使用料 30千円	
年間	両館	協力展示（展示スペースの貸出）	—			
図書館	連携・ネットワーク	通年	両館	ボランティア、サークル育成 ・読み聞かせ活動支援（りんごっこ、リーディング倶楽部たんぼぼ、湧別高校ボランティア部）		7-4
		年3回	児童センター	児童センター事業支援 ・読み聞かせ会参加協力、読書推進事業の実施		
		会議3回 研修2回	湧別図書館	図書館協議会 ・定例会議 ・委員視察研修 （遠紋ブロック研修会：遠軽町） （オホーツク管内公共図書館協議会：遠軽町）		
		7月～9月	両館	・北海道教育委員会主催「本を読んでファイターズを応援しよう」キャンペーン参加		

令和4年度社会教育事業計画、予算について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画推進項目
文化財保護活動	文化財の保護① 埋蔵文化財	年間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> ○発行行為に伴う埋蔵文化財の保護事業 <ul style="list-style-type: none"> ・開発事業者との事前協議 ・所在調査、試掘調査 ○埋蔵文化財包蔵地の状況把握 <ul style="list-style-type: none"> ・現状確認（遺跡パトロール） ・周知資料（台帳等）の整備 ◎シブノツナイ竪穴住居跡の調査 <ul style="list-style-type: none"> ・発掘調査：竪穴住居跡の年代等内容確認 ＊7月中旬～8月中旬予定 ・発掘調査概要報告書の刊行 ○シブノツナイ竪穴住居群調査検討委員会の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・有識者3名、国・道の担当者2名程度 ・夏と冬の2回開催 	委託料 （年代測定等） 1,037千円 印刷製本費 231千円	8-1
	文化財の保護② 自然関連	年間	町内各所	<ul style="list-style-type: none"> ○北海道指定文化財アッケシ草群の経過観察 ○天然記念物の手続（死亡・はく製・調査） <ul style="list-style-type: none"> ・オジロワシ ・タンチョウ ○記念木業務における関連部署との調整 		8-1
博物館活動	博物館資料① 収集	年間	郷土館・ ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> 【開拓関連資料】 ○資料寄贈への対応 【考古資料】 ○発掘調査に伴う出土資料の文化財認定と譲与申請 		8-1
	博物館資料② 整理・保管	年間	郷土館・ ふるさと館JRY ・収蔵庫	<ul style="list-style-type: none"> ○考古資料 <ul style="list-style-type: none"> ・シブノツナイ 竪穴住居群出土資料の整理 ○開拓関連資料 <ul style="list-style-type: none"> ・資料の保存環境整備 ○収蔵庫の管理と保管資料の状況確認 <ul style="list-style-type: none"> ・金属資料の清掃整理（防さび塗料塗布等） ・ガラスネガの写真の整理公開 ・資料外保管物の処分 ・JRY収蔵量増加 ・資料移動（旧芭小体育館） ○収蔵資料の特別利用許可に関する業務 		8-1
	調査研究	年間	—	<ul style="list-style-type: none"> 【博物館資料（開拓期）の保存・活用】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> ◎屯田関連情報の収集 ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・体験活動の系統化 ・開拓期の衣食住 ・冬期の生活 【埋蔵文化財の保存・活用、博物館教育】 ○保存 <ul style="list-style-type: none"> （主にシブノツナイ竪穴住居群） ・竪穴住居跡の集落形成に関する研究 ○活用 <ul style="list-style-type: none"> ・遺跡を活用した博物館教育の実践的研究 ○その他 <ul style="list-style-type: none"> ・大学等研究者との共同研究 		8-1
	展示	年間	郷土館 ふるさと館JRY	<ul style="list-style-type: none"> ○収蔵資料の展示 <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度の発掘調査成果展（仮） ○郷土館協力員（旧ボランティアガイド） <ul style="list-style-type: none"> ・展示解説（7月～8月、団体見学日など） 		8-2
			<ul style="list-style-type: none"> ○常設展示更新 <ul style="list-style-type: none"> ・解説パネルの追加 ・資料名表示の更新 ○収蔵資料展示 <ul style="list-style-type: none"> ・写真展（仮） ○収蔵展示室整備 		8-2	

令和4年度社会教育事業計画、予算について

領域	事業名	期日	場所	計画内容	予算額	中期計画推進項目
博物館活動	博物館教育① 学校授業・研修会・講座	年間	郷土館・ ふるさと館JRY	<p>【学校授業・研修会・講座】</p> <p>○開拓の歴史 （博物館が持つ過去の生活情報の内、日常生活に活用できるものを体験学習として実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働体験（鋸・斧・鉋） ・炊飯体験（薪ストーブ・羽釜） ・開拓期の衣体験 ・囲炉裏疑似体験（屯田生活体験館） <p>○博物館親子講座</p> <p>○先史文化 （文化財である遺跡に触れ、親しむ機会の提供）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先史の工夫を学ぶモノづくり学習（土器・勾玉） ・遺跡に親しむフィールドワーク ・遺跡の知識を深める講座 遺跡調査報告会（11月予定） ＊調査成果に応じて実施を判断する ・発掘調査の現地説明（主に学校を対象） ・発掘調査を通じた大学との連携 	講師謝礼 70千円	8-3
	博物館教育② 広報・情報提供	年間	—	<p>【広報・情報提供】</p> <p>○博物館だよりの発行（湧く湧く内、HP）</p> <p>○郷土史に関する情報提供及び質問対応（レファレンス）</p>		8-3

中期計画推進項目の欄は、第2次湧別町社会教育中期計画における推進項目との対応を示すものです。

中期計画における領域	推進項目	表記
第1節 家庭教育	学習機会の提供	1-1
	活動等の支援	1-2
	学習環境づくり	1-3
	連携ネットワーク	1-4
第2節 少年教育	学習機会の提供	2-1
	活動等の支援	2-2
	学習環境づくり	2-3
	連携ネットワーク	2-4
⋮	⋮	⋮
第10節 生涯学習の基盤整備	学習推進体制整備	10-1
	施設整備・活用	10-2
	学習情報収集・相談	10-3
	指導者養成・団体	10-4
	連携ネットワーク	10-5

令和4年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	備考
青少年指導センター	子ども会フットベースボール大会	7/10 (日)	未定	単位子ども会の大会への参加を通して、青少年の健全育成を図ると同時に、地域子ども会活動の促進と、相互の交流を図る。また、監督会議や反省会等を通じ、育成会で構成される組織運営の健全化を図り、地域自治の基盤づくりを支援する。	
	子ども会交通安全駅伝競走大会	8/28 (日)	開盛小 → 中湧別小		
	子ども会ミニバレーボール大会	11/20 (日)	中湧別総合体育館 湧別総合体育館		
リーダー事業	子ども会リーダー研修会	7/28(木)～ 29(金) R5.3/28(火) ～29(水)	五鹿山公園 紋別生涯学習センター	社会教育事業 少年教育参照	
	中高生リーダーの養成	年間	ふるさと館JRY ほか	リーダー研修会の企画運営などを行う、中・高生リーダークラブ「E=Q∇L（イクアル）」および「Rainbow prop（レインボープロップ）」と、その指導にあたる青少年指導員の活動を支援し、地域づくりやまちづくりに参画できるリーダーの養成を図る。	
町民会議	青少年健全育成町民会議事業	年間		青少年のたくましく健全な成長と青少年問題の理解を深めるとともに健全育成を図る。①あいさつ運動②指導、補導③青少年だより発行④優良青少年表彰	
文化連盟	総合文化祭	芸能の部 10/30(日) 展示の部 10/15(土) 16(日)	文化センターさざ波（芸能） 文化センターTOM（展示）	町内の芸術・文化関係者による日頃の活動成果の発表の機会と、町民に芸術・文化活動にふれてもらい文化の振興、発展を促します。	
良いもの見よう聞こう会	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	8月26日（金） 文化センターさざ波 清水ミチコ トーク&ライブ 9月10日（土） 文化センターさざ波 ミッフィーこどもミュージカル	
ビッグ・ウェーブ	芸術鑑賞会	通年	各文化センター	未定	

令和4年度 関連事業（後援・連携事業等）

団体名	事業名	期日	場所	計画内容等	備考
体育協会	ゆうべつ五鹿山マラソン2022	5/8 (日)	五鹿山スキー場	五鹿山スキー場を駆け上がるマラソン大会を実施することにより、町民の体力増進や健康づくりを高めるきっかけづくりと地域の更なる一体感の醸成を図ることを目的とする。	教委、スポーツ推進委員も運営協力
	チャレンジデー2022	5/25 (水)	町内	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体力づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化を推進する。	
実行委員会	駒澤大学合気道合宿	7月～8月	レイクパレス	合宿中に行われる公開練習や演武会、教室等の開催により合気道の普及を図るとともに町民との交流を図る。 合宿予定人員：30名予定	
	合気道正道友和会合宿	9月	レイクパレス	町内で合宿を行い、公開練習等を通して町民と交流を図るとともに合気道の普及を図る。 合宿予定人員：10名予定	
委員会	北柔会関連道場柔道合宿	10月	湧別総合体育館	柔道合宿のほか、町内の子ども達に対する柔道教室を開催することで、柔道の普及、交流人口の拡大を図る。 合宿予定人員：80名（指導者含む）予定	
	湧別原野林-ツクノカントリースキー大会	R5. 2/26 (日)	遠軽町 →湧別町	原野コース80km、北大雪コース56km、遠軽コース22km、湧別コース24km、10kmコース、5kmコース、駅伝コース95km	

令和4年度社会教育施設整備計画（500千円以上または主要なもの）

（単位：千円）

施設名	改修・整備等内容	事業費	備考
文化センター さざ波・TOM共通	非常用設備修繕<排煙窓>	2,200	
	情報通信ネットワーク環境整備工事	850	
文化センターさざ波	舞台吊物装置改修工事（全7期中1期目）	27,000	
	建物塗装工事（さざ波タワー部 全5期中5期目）	22,600	
	音響設備取替工事〈多目的ホール〉	3,520	
湧別総合体育館	トレーニング機器リース機器購入 トレッドミル、アップライトバイク インパクトチェストプレス インパクトラットプルダウン インスティンクトペクトラルフライ/リアデルト インスティンクトレッグプレス/カーフ インスティンクトレッグエクステンション/カーフ 各1台（合計7台）	リース4月 ～6月3ヶ月 分 325 購入987	令和4年6月 30日でリー ス期間満了 のため買取
湧別総合体育館	LED化改修工事	2,400	外灯6灯
湧別プール		12,900	場内42灯
中湧別総合体育館	高圧受電設備改修工事	800	
湧別総合体育館	手押し式芝刈機の購入	565	
湧別屋内ゲートボール場	非常用放送設備工事	1,940	
五鹿山スキー場	リフト緊張索更新及び誘導滑車整備工事	6,150	
湧別図書館	暖房給湯温水器更新工事一式	7,100	工事請負費
ふるさと館JRY	メイン展示室水銀灯修繕	1,215	

第 8 節 文化財保護活動・博物館活動の

現状と課題・推進目標・推進項目

【文化財保護活動・博物館活動の現状と課題】

文化財では、天然記念物として昭和 32 年佐呂間湖畔鶴沼のアッケシソウ群落、埋蔵文化財では昭和 42 年シブノツナイ竪穴住居群がそれぞれ北海道の文化財に指定され、現在に至るまで大切に保護されてきました。埋蔵文化財は他に北海道を代表する湧別市川遺跡、川西オホーツク遺跡をはじめ所在が確認されている包蔵地は 56 か所もあります。

博物館活動は、郷土館において地域の特徴である考古資料を中心に湧別地区のあゆみを展示しています。郷土館ボランティアが教育普及活動に協力しています。上湧別地区には一世紀にわたって継承されてきた湧別屯田の資料等の開拓の記録があり、ふるさと館 J R Y でそれらは保存展示され、明治開拓期の「衣食住」の体験などの教育普及活動が行われてきました。

文化財保護活動・博物館活動の基本は文化財と資料の保存にあります。これらを将来へと確実に継承する保護計画を立案実行することが最大の課題と考えます。

埋蔵文化財はこれまでと同様に開発行為による破壊を防いでいかなければなりません。そして、保護だけではなく調査分析を行い、教育普及活動へつなげていくことも求められます。特にシブノツナイ竪穴住居群は道教委による再調査が 3 力年行われ、今後も調査分析の継続が町に求められています。

博物館・収蔵庫にある資料はこれから情勢の変化とは関係なく安定的に保存されていく環境を構築しなければなりません。

保護に加えて、文化財、博物館資料を町民に広く知ってもらい、その存在意義を考えてもらう機会を提供していくことも重要な役割です。そのための方策を考えることも重要な課題です。

〈今後の課題〉

- ・文化財保護活動
 - 埋蔵文化財保護のため所在地の明確化と土木工事等による破壊を防ぐ必要があります。
 - シブノツナイ竪穴住居群等の包蔵地の調査が必要です。
 - 発掘資料の整理・分析が必要です。
 - 天然記念物保護の適正な各種事務手続きに努めます。
- ・博物館活動
 - 新しい収蔵庫の建設の必要があります。
 - 資料の安定的な保存環境を構築する必要があります。
 - とくに次世代を担う子どもたちへの博物館利用機会を増やす必要があります。
 - 文化財・博物館資料の重要性、存在意義を知る機会を提供する必要があります。

(推進目標と推進項目)

文化財保護活動・博物館活動推進目標	地域の文化財の保護・保存環境の整備 ～ふるさとの豊かな財産を活かそう～
-------------------	--

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとかから学び、地域と共に生きる	文化財の保存・資料収集・調査研究	●次世代へとつなぐために埋蔵文化財の保護環境の整備に努めます。	埋蔵文化財保護の手続きについて、徐々に開発関係者に浸透してきた。手続きに迅速に対応するため、埋蔵文化財包蔵地の地番・地権者再確認、現状確認の作業は継続的に実施する必要がある。
		●北海道指定文化財シブノツナイ竪穴住居群、調査研究を継続的に進めてまいります。	調査は継続的に、計画的に進められた。令和3年度からは調査検討委員会の設置など、専門家の意見を取り入れながら調査の質の向上に努めていく。
		●収蔵している石器、土器類の分類整理をすすめ、湧別地区の先史文化の調査研究を行います。	発掘調査の出土資料を中心に整理及び調査研究を進めた。収蔵資料については、点検および台帳整理を進めている。
		●資料の整理分類をすすめて、特に重要な資料に関しては、データベース・目録等の作成を行い情報公開に努めます。	屯田関連の写真類、町の絵葉書、町の要覧などのデジタル化を進めた。一部は道立図書館のホームページに掲載し公開している。
		●日常生活への応用を資料に関する調査研究を進めて、展示・教育普及活動へ活用します。	履物の調査を進めて、体験活動への実践を進めた。開拓期の体験では、「わらじ」の着用体験を試行実施している。
		●安定的な資料の保存ができる収蔵庫の建設について検討をします。	旧芭露小学校の体育館を収蔵庫にするために準備を進めている。
	博物館展示	●先史の展示の充実に努めます。（郷土館）	毎年、発掘調査の速報展を実施しています。
		●次世代を担う子どもたちに理解しやすい展示づくりを行います。	展示数の増加、キャプションの更新を行い、見やすい展示づくりを進めています。
		●常設展示での収蔵展示を行い展示資料の増加をすすめます。	薄荷蓋の追加、展示室内の棚の増設等を行っている。
	博物館教育普及	●文化財（埋蔵文化財・記念物）を知る機会提供に努めます。	学校授業等による遺跡見学の受入れ、遺跡調査報告会を実施した。
		●先史・開拓を知る体験学習を拡充します。	体験学習の内容を工夫し、開拓期、先史文化の理解を深めるようにした。
		●学校利用の促進に努めます。	体験学習のパンフレットの作成配布、新赴任教員への町の概要及び博物館の利用ガイドを配布し、学校利用の促進に努めた。
	●出張学習の内容充実に努めます。	日々の研究の成果を反映する内容づくりをしている。先史文化では、発掘調査の成果、開拓期では、屯田兵の装備品の研究成果を紹介した。	
	●学芸員の専門性・教育力を高めるための機会を拡充します。	町内のみならず、町外学校の体験等を受け入れて、教育力の向上に努めた。	
	●広報を活用し、博物館活動の周知に努めます。	毎月「湧く湧く」に文化財、博物館資料の情報を掲載している。	

第9節 スポーツ活動とスポーツ施設整備の

現状と課題・推進目標・推進項目

【スポーツ活動とスポーツ施設整備の現状と課題】

町民一人一人が心身ともに健康で充実した生活を営むためには、町民のだれもがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる、生涯スポーツ社会の実現を図ることが求められています。町民の健康や体力づくりに対する関心の高まりに伴い、多様なニーズに応じた各種スポーツ教室・講習会や大会の開催、合宿誘致、スポーツ施設の整備など、地域性を生かしたスポーツ活動の推進に努めてきました。

体育協会とスポーツ少年団本部の加盟団体は、町内スポーツ振興の原動力として自主的に活動しており、活動の支援を図ってきましたが、会員の高齢化や少子化による会員の減少や指導者不足等の課題を抱えています。また、子どもたちの体力低下やスポーツ離れにより、運動をしない子どもたちが増えてきている状況です。

今後もより多くの子どもたちにスポーツに接する様々な機会を提供し、体を動かす習慣を身につけさせることが求められています。

近年、青少年の体力低下や成人、高齢者の生活習慣病が増加しており、心身の健康保持増進のために運動習慣が形成されるよう、平成29年度より湧別総合体育館に新しいトレーニング機器を設置し、指定管理者事業として、インストラクターを試験的に配置したところ、町民の利用が増えてきております。今後もより多くの町民に継続的に利用してもらうためのニーズの把握や事業内容の充実が求められます。

スポーツ合宿誘致事業では、野球や柔道、合気道、陸上等の競技団体が町内で合宿し、町民との交流やスポーツへの意識高揚が図られていますが、更に合宿者が持つ高い技術をより多くの町民に還元し、交流を深める機会を提供し、教育的効果を高めるとともに、地域の活性化を含めた事業展開を図ることが求められます。

各スポーツ施設においては、民間のノウハウを活用したサービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度を導入しており、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るためには、指定管理者と連携したサービスの向上への取り組みが求められます。平成29年3月より町全体の公共施設を対象に「湧別町公共施設等総合管理計画」が策定されました。今後はこの計画を踏まえたスポーツ施設の管理運営と計画的な整備に努めながら施設の有効活用、利用率向上に向けた取り組みの推進が求められます。

＜今後の課題＞

- 町民がスポーツに親しむ機会提供と普及を図る必要があります。
- 指導者の発掘・養成や資質向上を図り、指導体制の充実に努める必要があります。
- 体育協会・スポーツ少年団などの関係団体の活動支援の充実に努める必要があります。
- スポーツインストラクター等を配置し、指導内容の充実や町民のニーズを踏まえたトレーニング機器等の整備を図る必要があります。
- スポーツ合宿の受け入れ体制の充実と合宿者が持つ高い技術を町民に還元する機会の提供を図る必要があります。
- 指定管理者の知見を活用しサービスの向上と適正な管理運営に努めるとともに「湧別町公共施設等総合管理計画」を踏まえたスポーツ施設の計画的な施設の改修等に努める必要があります。

(推進目標と推進項目)

スポーツ活動・ スポーツ施設の 推進目標	明日の元気は、きょうのスポーツから みんなで 体を動かし楽しもう
----------------------------	-------------------------------------

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	生涯スポーツの普及	●ライフステージに応じた各種教室、講習会、大会などスポーツに親しむ機会を定期的に提供し、健康や体づくりの増進とスポーツを通じた住民相互の交流の推進に努めます。	小学低学年に対するチャレンジスポーツスクールや小・中学生・一般に対するランニング教室、その他一般向けの各種教室やスポーツ大会のほか、高齢者でも参加できる健康運動教室など、各年代それぞれのライフステージに合った事業を行うことで、町民の健康・体力増進や運動を始めるきっかけづくりが図られている。
		●スポーツ合宿者による教室や講習会、町民とのふれあいや交流の機会の充実にも努めます。	町内において合気道や柔道など各スポーツ合宿が行われ、合宿者が持つ高いレベルの技術に触れる機会を提供することにより、町民のスポーツへの意識高揚と交流が図られている。
		●スポーツに特化した楽しい一日を過ごす「町民皆スポーツの日」の創設を目指します。	住民総参加型のスポーツイベントである「チャレンジデー」に参加し、町民の健康づくりや体づくり、スポーツやレクリエーション活動への参加意欲の高揚と習慣化が図られている。
	活動等の支援	●体育協会やスポーツ少年団など関係団体の育成と自主的な活動支援に努めます。	自主的な活動を支援するための補助を適正に行うことができた。体育協会主催の五鹿山スキー場を駆け上がる「五鹿山マラソン」を開催しているが、教育委員会に委ねられており自主的な活動に至っていない。
		●スポーツ用具等を整備することにより、スポーツを始めたい方の支援に努めます。	町民の健康維持・増進と体力の向上を目的として、湧別総合体育館トレーニングルームにリース機器7台と購入機器7台の整備を図った。運動指導職員によるトレーニング機器を使った指導、運動相談、トレーニングメニューを提供することにより町民の健康づくりの意識が高まってきており、利用者の増加が図られている。
		●スポーツ推進委員等によるニュースポーツの研究・普及を図り、町民の健康増進に貢献します。	チャレンジスポーツスクールにおいて、「フロアボール」や「タグラグビー」など普段経験することのできないニュースポーツを経験させている。また、中湧別総合体育館の大規模改修工事に併せ、施設の特徴として、新たにバランス感覚や集中力などを鍛えられる「ボルダリング」と「スラックライン」の設備を設置し、町民が楽しみながら体力の増進が図られている。職員・スポーツ推進委員の研修において、既存のスポーツから新たなスポーツまで、今後の取り組みに活かすべき分野の研究に努めている。
		●「するスポーツ」に加え、「支えるスポーツ」として大会等の支援を行うボランティアの確保に努めます。	サロマ湖100kmウルトラマラソンにおいて、中・高校生、一般町民がボランティアとして参加することにより、「支えるスポーツ」としてボランティア意識の高揚が図られている。
	学習環境づくり	●町民のスポーツ活動を推進する指導者の育成や養成を図り、指導体制の充実にも努めます。	スポーツ少年団やスポーツ団体における会員の減少や指導者が不足しており、横の繋がりもない状況である。今後、町内で活動している各団体やスポーツ推進委員等と連携しながら考えていかなければならない。
		●著名な外部講師等の招聘により、技術向上の習得に努めます。	各教室の開催にあたり、専門的な知識・技能を持つ外部指導者を積極的に招聘してきた。種目によっては世界的な技術を持つ方も招聘しており、スポーツに対する意欲の向上や高度な技術習得の支援に努めることができた。
		●スポーツインストラクター等による個々の体力に応じた運動メニューの作成を推進します。	月2回実施している一般町民を対象とした、「健康運動教室」やトレーニングルームにおいて器具等を使った個人指導、運動相談、運動メニューを提供することにより、町民の健康維持増進と体力の向上が図られている。
	連携・ネットワーク	●住民のニーズを踏まえながら利用しやすいスポーツ施設の計画的な改修等と適正な管理運営、利用実態に即した開館を目指します。	住民のニーズを踏まえ利用しやすい管理運営や定期的な保守点検・修繕等を通じて適正な維持管理が図られている。また、指定管理者と連携し、各施設ともに町民が快適に利用できるよう、利用者の意見・要望を聞き入れながら、施設の整備・補修等環境づくりに努めている。
		●健康福祉分野との連携を図り、運動やスポーツを取り入れた町民の健康づくり教室の開催に努めます。	福祉課の高齢者を対象とした介護予防教室「大筋クラブ」や健康子ども課の乳幼児を持つ保護者を対象とした「子育て支援センター事業」と連携し、運動指導職員が講師として指導することにより町民の健康づくりが図られている。
●体育協会やスポーツ少年団、自治会、関係団体等との連携を図り、町民みんなで楽しめる生涯スポーツの推進に努めます。		「町民300歳バレーボール大会」の開催にあたり自治会との連携や「五鹿山マラソン」の開催にあたっては、体育協会との連携が図られている。今後もネットワークを繋げることで、何ができるのかを考えていかなければならない。	

第10節 生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の 現状と課題・推進目標・推進項目

【生涯学習の基盤整備と社会教育施設整備の現状と課題】

生涯にわたってあらゆる機会や場所において、様々な学習活動がより効果的になるよう各関係機関・団体との連携強化に努めてきました。

また、地域の施設を拠点とし、地域ぐるみで生涯学習を推進するサークル等が自主的に学習活動を行うための支援、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図ってきました。

現在、生涯学習施設として、文化センター（2施設）、ふるさと館JRY、郷土館、図書館（2施設）、総合体育館（2施設）、野球場（2施設）、ゲートボール場（2施設）、パークゴルフ場、スキー場などの施設があり、多くの町民に利用されています。

しかし、昭和50年代から60年代にかけて建設された施設については、老朽化が進み、改修工事や修繕を必要とする施設が多く、計画的に改修工事等を行っていますが、まだ整備が必要な施設があります。

施設の維持管理については、民間の能力を活用しつつ、住民サービスの向上や経費の削減を図ることを目的に指定管理者制度（ふるさと館JRY、図書館を除く）を導入し、利用者の視点に立った施設の整備充実を図るため、指定管理者と協議しながら、サービスの向上に努めてきました。

また、町内全ての公共施設等における将来の基本的な管理方針を定める「公共施設等総合管理計画」が平成29年3月に策定されたことから、施設の統廃合も含めた具体的な実行スケジュールが提示されました。この計画を踏まえ、今後も町民が生涯にわたって、日常生活の中で目的に応じて気軽に施設の利用ができるよう、施設の適正な維持管理や整備の充実に努めます。

＜今後の課題＞

- 各関係機関・団体との相互の連携・協力を図る必要があります。
- 生涯学習情報の収集・提供、相談体制の充実に努める必要があります。
- 住民の自主活動に対する支援体制の整備が必要です。
- 必要に応じ施設の改修等に努める必要があります。

(推進目標と推進項目)

生涯学習の基礎 整備推進目標	生涯学習の基盤整備は社会教育のかなめ、いつでも、 どこでも、だれでも参加し楽しもう
-------------------	--

項目	課題解決のための方策	方策に対応する事業等の取組み状況（担当職員によるふりかえり）	委員からの意見・課題等
人、自然、ふるさとから学び、地域と共に生きる	体学 制習 整推 備進	●住民の様々な学習活動がより効果的になるよう関係機関や団体との連携強化に努めます。	・社会教育関連事業の周知に努めるなど、これまでどおり関係機関や団体との連携強化に取り組んでいる。
		●総合的に生涯学習を推進するための体制整備に努めます。	・団体が自主的に学習活動を行うための人的支援、場所の提供、金銭的支援のほか、生涯学習情報誌の発行や相談体制の充実を図っている。
	活施 用設 ・整 連備 携・	●住民のニーズを踏まえながら、利用しやすい施設の整備・機能充実や効果的な管理運営に努めます。	・指定管理施設については、指定管理者への指導助言を行っている。 ・指定管理施設とそれ以外の施設についても連携を強化し、効率的な活用を図るなど学習サービスの向上に努めている。
		●施設間の連携やネットワーク化により、学習サービスの向上に努めます。	
	学習 相 談 体 制 の 取 集 提 供 ・	●住民の学習活動を支援するため、生涯学習情報の収集・提供に努めます。	・生涯学習情報紙「湧く湧く」発行にあたっては、わかりやすい紙面づくりに努めているほか、かわらばん、町ホームページ、遠軽地区なななんと情報を活用し情報提供をしている。
		●多様化する学習ニーズに応じ、住民の学習活動が円滑に行われるよう相談体制の充実を努めます。	・多様化する学習ニーズに対応するため、相談体制の充実を努めている。
	用指 導者 の 活 動 支 援	●住民の多種多様な学習ニーズに対応するため、様々な分野から指導者を発掘、養成し、人材の活用に努めます。	・人材育成に向けて、活動の機会や情報の提供に努めているものの、計画的・組織的な指導者養成はできていない状況である。
		●生涯学習振興奨励事業補助金活用により、サークル等が自主的に学習活動を行う支援に努めます。	・生涯学習振興奨励事業の活用により、サークル等の自主的な学習活動に対する支援に努めている。
		●ボランティアを育成するとともに、活動の支援に努めます。	・実行委員などボランティアとして事業に参画した方々については、地域活動のリーダーとして活躍の場の提供につながっている。
	連携 ワ ー ク ・ ネ ッ ト	●社会教育委員、スポーツ推進委員、図書館協議会委員、各団体、町各部局、地域、学校との連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めます。	・青少年健全育成町民会議などに参画するなど、連携強化とネットワーク化を図り、生涯学習活動の推進に努めている。
	●生涯学習に関する情報を収集、データベース化し、ガイドブック等の発行を検討します。	・生涯学習に関する情報収集は行っているものの、ガイドブックの発行については進んでいない。	